2015 年度秋学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	教職科目
-----------	------

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

教職科目では、100%（2013 年度 97.2%、2014 年度 91.2%）の実施率であった。回答率は、84.1%（2013 年度 84.5%、2014 年度 83.3%）であり、他の科目区分とほぼ同様の回答率である。

2013 及び 2014 年度の秋学期の教職科目と比較すると、全体的な傾向として、以下 3 点が挙げられる。

- (1) 学生の授業内容理解度、授業中の意欲的な活動、知的好奇心、教員の話し方、授業方法、授業内容とシラバスの一致、教員の授業に対する配慮に関する項目はいずれも平均値 4.4 を超え、全体的にかなり高い。特に、授業時間外学習項目以外では、いずれも評点が 5 の割合が最も高く、ほぼすべての項目が 5 割を上回っている。これは、3 年間で最も高くなっている。
- (2) 授業時間以外の学習時間は、0.74 時間であり、全学平均(0.69 時間)をやや上回っている。内訳として、0 時間が 40%(2013 年度 32.2%、2014 年度 35.4%) 30 分が 27.8%（2013 年度 32.2%、2014 年度 33.2%）となっている。3 年間でほぼ同じ傾向を示すが、教室以外での学習時間が少ない傾向が読み取れる。一つの原因が、専門以外の科目として教職科目を取っていることに原因があると思われる。
- (3) DWCLA10 の選択率は、思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、分析力がそれぞれ、59.7%(2013 年度 59.9%、2014 年度 60.7%)、39.0%（2013 年度 40.7%、2014 年度 40.6%）、26.5%(2013 年度 32.2%、2014 年度 34.1%)であった。プレゼンテーション力がやや下がったが、全体の順位等に関しては 3 年間で、ほぼ同じ傾向を示している。

以上、教職科目は、全体としてほぼ同じ傾向を示している。授業時間以外の学習時間が少ない所が気になる。引き続き、Active Learning や質の高い教師を育成するための取組を実施してほしい。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。